

<協議①>

府立高校のスクールミッション(各高校の存在意義や社会的役割)の基本となる考え方について

検討の観点等	主な意見の要旨	今後の協議との関連性
<p>■府立高校(公立)として求められる役割</p> <p>◇多様性への対応</p> <p>◇私立高校との関係</p> <p>◇中学校との連携</p> <p>◇大学等との連携</p> <p>◇魅力・情報の発信</p>	<p>【多様な学校の役割】</p> <p>○公立である府立高校には、教育的な使命、福祉的な使命、地域社会を支える社会的な使命など、多様な役割が求められている。</p> <p>○福祉的機能や社会的機能が優れている高校における生徒一人一人に寄り添う仕組みや学校行事等を通して育む力など、公立の良さを発信すべきである。</p> <p>○生徒にとって学校行事や部活動などを一生懸命やることができる一方で、基礎的な学力を身につけていくことも当然必要である。</p> <p>○人生100年時代において、実社会で重要になるのは学び続けることではないか。「学び方」をいかに学ぶかが非常に重要であり、高校時代に身につけてほしいと思う。</p> <p>○府南部の都市部では人口が多く学校も密集しているが、府北部の中山間地域では人口減少が課題など府内の地域事情は大きく異なるため、高校の役割の多様性や在り方の違いが必要である。</p>	<p>協議② 協議⑤</p> <p>協議② 協議⑤</p> <p>協議②</p>
	<p>【多様なニーズへの対応】 【多様な学校のスタイル】</p> <p>○府立高校全体として、多様な生徒が学べるということは重要である。</p> <p>○生徒の進学希望や就職希望、学び直しやソーシャルスキルトレーニングが必要な生徒など、様々な学習ニーズに対応する高校が必要である。</p> <p>○学校の規模、学科等の違いだけでなく、例えば学び直しのための学校など生徒の多様性に対応した多様な学校のスタイルが必要である。</p>	<p>協議② 協議⑤</p> <p>協議② 協議⑤</p>
	<p>【多様な生徒が学べるシステム】</p> <p>○不登校の生徒、学び直しや様々な支援が必要な生徒が、しっかりと学べて社会へ出て行くことを意図した高校が更に必要である。</p> <p>○中学校段階で身につけるべき学力が十分に定着していない生徒を受け入れ、社会に出る力を身につけさせる高校としてのニーズもある。</p>	<p>協議⑤</p> <p>協議⑤</p>
	<p>【私立高校との関係(役割の違い)】</p> <p>○府立高校を取り巻く環境を考えるには、私立高校との関係性も意識する必要がある。</p> <p>○私学(私立高校)においても、実質的には公立の役割を担っている。</p> <p>○公立高校と私立高校とでは明らかにミッションが異なる。私学には建学の精神があり、公立は地域人材の育成といったミッションがあると思う。</p>	

<協議①>

府立高校のスクールミッション(各高校の存在意義や社会的役割)の基本となる考え方について

検討の観点等	主な意見の要旨	今後の協議との関連性
<p>■府立高校(公立)として求められる役割</p> <p>◇多様性への対応</p> <p>◇私立高校との関係</p> <p>◇中学校との連携</p> <p>◇大学等との連携</p> <p>◇魅力・情報の発信</p>	<p>【中学校との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校と府立高校が連携を図り、中学校と高校の教員が対話の機会を持つことが重要である。 ○高校の教員が中学校での教育内容や生徒指導等の状況を知ることが必要で、授業観や指導方法が異なる校種間での連携が重要である。 ○中高生の交流によって、中学生は先輩の高校生との対話を通して、高校への憧れや関心、意欲を持つことになる。 <p>【大学との連携等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学との連携によって、高校の「総合的な探究の時間」の学習支援を受けることができるのではないかと。各高校のスクールミッションに応じた分野の大学教員等とのマッチングも考えられる。 ○中学生や保護者は、より環境の良い学校、大学とのつながりがある学校を選択する傾向もある。 <p>【学校の魅力・情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各高校の魅力がどれだけ中学生に「伝わるか」が非常に重要である。 ○中学生に対して、高校側からは卒業段階までにこういう力が身につくということが伝わるようしっかりと広報することが重要である。 ○ICTの活用等によって、府立高校の情報が身近に見られる環境にすることが重要である。 	<p></p> <p>協議④</p> <p>協議④</p>
<p>■府立高校ならではの強み・ブランド力</p> <p>◇学校間連携</p> <p>◇多様な教育活動</p> <p>◇安心・安全な学び</p>	<p>【府立高校間の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○府立高校のスケールメリットを生かして、幅広い学校間での連携や交流を行うことも重要である。例えば、単位認定を前提とした府立高校間での留学制度なども考えられる。 ○他校の良さを知ること、生徒の視野も広がると思う。 ○府立高校間では教員も含めて連携し合えることが、府立高校ならではの魅力と言える。 <p>【多様な教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公立の魅力には、勉強を中心に部活動や学校行事など、多様な教育活動に取り組むという文武両道の考え方がある。 ○公立高校の生徒の良さは、多様な教育活動を追いかけた成果であると思う。粘り強さや我慢強さ、努力の大切さを学ぶこと、学び方を学ぶということにある。 	<p>協議②</p>

<協議①>

府立高校のスクールミッション(各高校の存在意義や社会的役割)の基本となる考え方について

検討の観点等	主な意見の要旨	今後の協議との関連性
<p>■府立高校ならではの強み・ブランド力</p> <p>◇学校間連携</p> <p>◇多様な教育活動</p> <p>◇安心・安全な学び</p>	<p>【多様な教育活動】</p> <p>○ボランティア活動など授業以外での多様な社会活動や経験を行えることも府立高校の良さであると思う。</p> <p>○府立高校の良さが示せる学力保障の指標をつくることも考えられる。どの府立高校においても基礎的な学力が身につくという考え方もあると思う。</p> <p>【安心・安全な学び】</p> <p>○府立高校には生徒一人一人を見据えた丁寧な指導を行う教員という魅力があり、その魅力をしっかり発信していくことも必要である。</p> <p>○新型コロナウイルスの感染拡大を通して、教育行政がバックボーンにある公立高校としての安心感が特に認識されたと思う。</p>	
<p>■Society5.0時代を見据えた新しい学びの実現</p> <p>◇ICTの積極的活用</p>	<p>【ICTの積極的活用】</p> <p>○府立高校は地域がキーワードであり、南部地域の生徒と北部地域の生徒とが、1人1台端末などICTを活用した交流や連携を行うこともできると思う。</p> <p>○予測困難な時代の中で、学校に通えない状況になっても学習が続けられるように1人1台端末などICTを活用することが重要である。</p>	
<p>■探究的な学びを通して地域への誇りや愛着を育む</p> <p>■地域に根ざし、幅広い分野で活躍できる人材育成</p>	<p>【地域事情や地域特性への対応】</p> <p>○居住地からの通学を考慮した、普通科と地域産業に関わる職業系専門学科との併設は、社会情勢等の変化も踏まえると、その考え方を見直す必要もあると思う。</p> <p>○各地域のニーズや地域事情の違いを踏まえつつ、国の地域おこし協力隊制度の活用などによって、高校生と地域の架け橋となるコーディネーター等の人材の配置を市町村が行うといった高校を支援する取組なども考えられる。</p>	<p>協議② 協議③</p> <p>協議②</p>
<p>◇地域事情への対応</p> <p>◇地域社会との連携</p>	<p>【地域社会との連携】</p> <p>○府立高校には多様な地域から生徒が通っており、生徒同士の交流を通して知らないことを知るといった知的好奇心に対するメリットもある。</p> <p>○地域の方々との交流など、地域とのつながりや地域の人材を地域で育てることなどが、府立高校にとって重要なポイントであると思う。</p>	<p>協議②</p> <p>協議②</p>

<協議①>

府立高校のスクールミッション(各高校の存在意義や社会的役割)の基本となる考え方について

検討の観点等	主な意見の要旨	今後の協議との関連性
<p>■教員の資質能力の向上</p>	<p>【教員の資質能力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各高校の校長が意識的に、資質能力向上のための教員研修を行うことが重要である。 ○各高校の特色化に応じた人事異動など、教員自身の専門性を磨く人事異動も必要ではないか。例えば、管理職と教員との対話を重視した評価制度などは、資質能力の向上につながると思う。 ○高校生段階での魅力のある大人との出会いが生徒の成長を促すと思う。例えば、探究活動等を通して、校内で生徒と教員が学び合うコミュニティができると、生徒・教員相互にとって魅力あるものになると思う。 ○教員の幅広い交流を促すため、学校間での授業参観をすることも重要ではないか。オンラインを活用することで、南部地域と北部地域など学校間での教員による交流や連携も考えられる。 ○教員の部活動等における負担を軽減することで、教員が自分を高めるために時間が取れるようになり、資質向上にも繋がると思う。 	